

ビジネス基礎 第3回休暇中課題

下の QR コード又は URL を読み込み、ビジネスの担い手「ものの生産者」の動画を見て、次の①～⑤の問題をノート又は印刷できた生徒はプリントの解答欄に答えなさい。



<https://www.nhk.or.jp/kokokoza/tv/business/archive/chapter003.html>

I.ものの生産者の役割と種類

ものの生産者は、第一次産業と第二次産業に分類されます。第一次産業とは、自然からもたらされるものを収穫する農業、漁業、林業です。第二次産業とは原材料を加工してものをつくり出す「 ① 」や建設業などである。

ものの生産者の役割は、消費者ニーズを満たす製品を製造し、「 ② 」として市場に提供すること。

つまり、消費者に「この商品を買ってよかった」と思わせる顧客満足度の高い商品を提供することが重要である。そうすれば、商品は売れて収益が上がり、会社は成長して雇用も増える。さらに、消費者ニーズに合った新しい商品の開発にも力を注いでいる。

II.ものの生産者のビジネス

ものの生産者のビジネスでは、消費者ニーズを満たす製品をつくることが最も重要である。しかし同時に、製品の安全性への配慮、環境問題への対応といったことも求められている。

製品の欠陥が原因で被害を受けた消費者を保護する法律として「 ③ 」がある。

製造物責任法（PL 法）では、製品の欠陥が原因で人やものに損害を与えた場合、その製造者が、被害を受けた人に対して損害賠償責任を負うことを定めている。

また、環境に配慮した循環型社会をめざすために、家電リサイクル法など各種のリサイクル法が施行されている。

III ものの生産者の動向

日本の製造業には、世界に誇る高い技術開発力があり、「④」に優れている。

例えば、青色 LED、カーナビ、リチウムイオン電池、光ファイバー、胃カメラなどたくさん世界初の製品が日本で生まれている。コンビニにも売っているインスタントラーメンやレトルトカレー、乾電池、使い捨てカイロも日本生まれの製品である。そのほか、私たちに身近なカラオケや自動改札機も日本生まれである。このような世界初のものをつくり出す高い技術力は、長期にわたり研究・開発を行ってきた日本の「ものの生産者」の努力によるものである。

動画では、開発着手から実用化まで半世紀をはるかに超えるリニア中央新幹線を作り上げた。超電導磁石のしくみやそれを利用したリニアモーター、最高時速はギネス世界記録になっていることを紹介している。映像を見て「⑤」中央新幹線は、走るというより飛んでいるという感じになるかもしれない。

動画の後半では、リニア中央新幹線の開発に携わってきた技術者の方々の話をうかがっている。開発初期の苦労や現在の取り組みの様子がよく分かる。

リニア中央新幹線が開通すれば、人々の仕事の効率は飛躍的に向上する。たとえば、移動に3時間かけて10個分の仕事をしていた人は、リニア中央新幹線によって移動が1時間になれば、30個分の仕事をこなすことができるようになるかもしれない。動画の中でリニア中央新幹線の開通は、日本のビジネスにとって革命となると言っているのは、このためである。

解答欄

①

②

③

④

⑤